

【1】(1) opens

- (2) are talking
- (3) knows
- (4) feeling

解説

- (1) 「毎朝8時に」とあり、習慣的にすることを表すときは、現在形の動詞を使う。
- (2) 「話をしています」と、している最中のことを表すときは、現在進行形を使う。
- (3) know「知っている」は状態を表す動詞なので、現在進行形にはせずに現在形を使う。
- (4) feel「感じる」は状態を表す動詞なので、ふつうは進行形にしないが、このように一時的な状態を表す場合は進行形で使う。現在進行形は、現在の一時的な状態であることを伝えたいときにも使うことができる。

【2】(1) visited, yesterday

- (2) thought, were
- (3) was watching
- (4) used, live

解説

- (1) 「昨日」とあり、過去のことを表すので、動詞は過去形を使う。
- (2) 「思っていました」とあるので、thoughtと過去形を使う。「あなたが駅にいる」のも「思っていました」と同じ過去の時点でのことなので、主節の述語動詞と時制を一致させて、過去形を使う。
- (3) 過去のある時点でしていたことを表すときは、過去進行形を使う。
- (4) (今とは違う)昔のことを表すときには、〈used to do〉を使う。この表現には、「今はそうではない」という含みがある。

【3】(1) will be

- (2) to buy
- (3) will be giving
- (4) going to be

解説

- (1) 「あなたの誕生日はいつですか」「9月29日です。もうすぐ17歳になります」soon「もうすぐ」とあり、未来のことなのでwillを使う。
- (2) 「スマートフォンが作動しないんだ」「それはお気の毒に。新しいのを買うつもり？」〈be going to do〉を使って、「～するつもりでいる」という意味を表す。
- (3) 「フランスの大統領が明日、何時に演説するかを知っていますか」「明日のこの時間に彼は演説をすることになっています」this time tomorrowとあるので、「明日のこの時間にするようになっていくこと」を表すと考え、〈will be -ing〉の未来進行形を使う。
- (4) 「雪が降り始めたよ」「今夜はとても寒くなりそうだね」
「雪が降り始めた」ことを受けて、「寒くなりそうだね」と言っているので、〈be going to do〉を使って「そうなりそうなこと(兆候がある)」を表す。

【4】(1) has, arrived

- (2) heard, before
- (3) lived, for
- (4) How long have

解説

- (1) 「到着したところです」という現在の状況を表すために〈完了・結果〉を表す現在完了形を使う。「到着する」はarriveを使う。
- (2) 「～のことを聞く」はhear of ～で表す。「～したことがある」は現在完了形の経験用法。
- (3) 「20年間住んでいる」という〈継続〉を、現在完了形を用いて表す。
- (4) 「どのくらいになりますか」は、「どのくらい～していますか」の意味と考え、〈How long have[has] + 主語 + 過去分詞～?〉という現在完了形の継続用法を使う。

- [5]** (1) The ship leaves the harbor at 8:30 every day.
- (2) I was taking a shower when you called me.
- (3) No, I hadn't[had not] met her before yesterday.

解説

- (1) 「船は毎日8:30にその港を出発します」
「毎日」とあり、習慣的にすることなので、動詞は現在形を使う。
- (2) 「あなたが私に電話をしたとき、私はシャワーを浴びていたところだった」
「あなたが私に電話をした」のは過去のある時点のことなので過去形、「シャワーを浴びていた」のは、そのときにしていたことなので過去進行形で表す。
- (3) 「いいえ、昨日まで、彼女に会ったことはありませんでした」
「昨日まで」という過去のある時点までの〈経験〉を述べるので、過去完了形を使う。

- [6]** (1) My sister hasn't[has not] decided yet what to do in the future.
- (2) When Jim visited Bob, he was having breakfast. [Bob was having breakfast when Jim visited him.]
- (3) My grandmother will become 90 years old next month.
- (4) She will be moving to Tokyo next year to go to college.

解説

- (1) 「まだ決めていません」は現在完了形の完了・結果用法の否定形を使って表す。「将来」はin the futureで表す。
- (2) 「ジムがボブを訪ねた」のは過去のある時点のことなので過去形、「朝食を食べている」のは、その時にしていたことなので過去進行形で表す。
- (3) 「来月」とあり、未来においてそうなることなのでwillを使って表す。

- (4) 「～へ引っ越す」はmove to ～で表す。未来において「～することになっている」ことなので、未来進行形を使う。「大学に通うために」は不定詞の副詞用法を使って、to go to collegeで表す。

- [1]** (1) visited (2) reach
(3) tastes (4) Raise

解説

- (1) go「行く」は自動詞なので、あとに目的語を置くことはできない。visit「～を訪れる」は他動詞なので、あとに目的語を置くことができる。
- (2) arriveは自動詞なので、「～に到着する」はarrive at (in)～と、前置詞を伴う。reachは他動詞なので、あとに目的語を置くことができる。
- (3) 「～な味がする」は自動詞tasteを使う。very sweetは補語(C)であり、この文はSVCの文型である。
- (4) 「～を上げる」は他動詞raiseを使う。riseは自動詞で「～が上がる」という意味である。

- [2]** (1) were broken
(2) is being repaired
(3) be seen
(4) has, been published

解説

- (1) 「割られた」は受動態<be動詞+過去分詞>で表す。主語These windowsは複数であり、なおかつ過去の文なので、be動詞はwereにする。breakの過去分詞はbroken。
- (2) 「修理されているところだ」は進行形の受動態<be動詞+being+過去分詞>で表す。
- (3) Cherry blossomsとseeは「桜の花が見られる」という受動の関係なので、受動態で表す。助動詞を含む受動態は<助動詞+be(原形)+過去分詞>で表す。seeの過去分詞形はseen。
- (4) 「出版されたことがない」は完了形の受動態<have[has] been+過去分詞>を否定形にして表す。

- [3]** (1) bring me an umbrella [bring an umbrella for[to] me]
(2) named me Ami

- (3) gave an album to Rick
(4) cook fish for us

解説

- (1) <bring + O(人) + O(もの)>で「人に～を持ってくる」。<bring + O(もの) + for[to] + O(人)>でも表せる。
- (2) <name + O + C>で「～を…と名付ける」。
- (3) giveを動詞とする文で、前置詞toを使って「だれに」を表す場合、<S + give + O(もの) + to + O(人)>という語順になる。
- (4) cookを動詞とする文で、前置詞forを使って「だれに」を表す場合、<S + cook + O(もの) + for + O(人)>という語順になる。

- [4]** (1) get off (2) looking up
(3) Turn on (4) put off

解説

- (1) 「～を降りる」はget offで表す。助動詞willがあるので、getは原形のまましておく。
- (2) 「～を調べる」はlook up ～で表す。「調べている」と現在進行形の文にしなければならぬので、lookをlookingにし、空所の前にあるareと合わせて<be -ing>の組み合わせをつくる。
- (3) 「(明かりなど)をつける」はturn on ～で表す。命令文なのでturnは原形のまま使う。
- (4) 「～を延期する」はput offで表す。受動態の文なので動詞を過去分詞にしなければならないが、putの過去分詞はputで、原形と同じつづりである。

- [5]** (1) Please take off your shoes here.
(2) This building was built a hundred years ago.
(3) He bought me a cute hat for my birthday.

解説

- (1) 「ここで靴を脱いでください」
take off ～で「～を脱ぐ」という意味なので、これをそのままPleaseのあとに続ける。
- (2) 「この建物は100年前に建てられました」
主語は「この建物」なのでThis buildingである。wasとbuiltを合わせると、〈be動詞＋過去分詞〉で受動態の形になる。最後に時を表す副詞句としてa hundred years agoを置く。
- (3) 「私の誕生日に、彼は私にかわいい帽子を買ってくれました」
forがあるが、これはfor my birthdayで「私の誕生日に」とするために必要なので、残りの語句で〈S + V + O(人) + O(もの)〉という表現をつくる。ここでは「人」がmeで「もの」がa cute hatになるので、その順番で並べる。

- [6] (1) I showed Tom some of my old photos. [I showed some of my old photos to Tom.]
- (2) His animation is loved by people all over the world.
- (3) My mother raises vegetables in her garden.
- (4) What are you looking for?

解説

- (1) 〈S + V + O(人) + O(もの)〉または〈S + V + O(もの) + to + O(人)〉の文型を使い、Tom「トム」とsome of my old photos「私の古い写真のうちの何枚か」をそれぞれあてはめてつくる。
- (2) 主語をHis animation「彼のアニメ」とした受動態の文をつくる。動作主は「世界中の人々」なので、byを使ってby people all over the worldとする。
- (3) 「～を栽培している」という意味の他動詞としてraiseが与えられている。目的語は

vegetablesである。

- (4) 「何を」をたずねる文にするので、Whatで始める。look for ～で「～を探す」。「探している」という現在進行形の文なので、〈be-ing〉を使う。

[1] (1) can (2) was able

(3) can't[cannot] (4) may[can, could, might]

解説

- (1) 「～できる」という可能の意味は、助動詞 can や be able to で表す。
- (2) 過去に実際にできたことは、was[were] able to で表す。主語が「私」なので、was を使う。
- (3) 「～のはずがない」という否定の確信の意味は、助動詞 can't[cannot] で表される。
- (4) 助動詞 may は「～かもしれない」という可能性の意味を表す。can, could, might も「～かもしれない」という可能性を表す意味で使うことができる。

[2] (1) have to (2) should be
(3) must keep (4) must be
(5) should be

解説

- (1) 「～しなければならない」という義務の意味は、助動詞 must または have to で表す。
- (2) 「～すべきだ」という当然の意味は、助動詞 should で表す。さらに、「考えられるべき」と受動態になっているので、〈助動詞 + be(原形) + 過去分詞〉の形にする。
- (3) keep ~ clean で「～をきれいにしておく」という意味。「～しなければならない」を1語で表すので、助動詞 must を使う。
- (4) 「～に違いない」という確信の意味は助動詞 must で表す。
- (5) 「～のはずだ」という推測の意味は、助動詞 should で表す。There is a pharmacy around here. 「この辺りに薬局がある」という文に「～のはずだ」という意味を加えるので、There should be ... とする。

[3] (1) won't (2) will
(3) would

解説

- (1) 「どうしても～しない」という拒絶は、助動詞 will の否定形 won't[will not] で表す。
- (2) 「きつとそうする」という意志は、助動詞 will で表すことができる。
- (3) 「よく～したものだ」という過去の習慣は、would で表すことができる。

[4] (1) should have practiced
(2) may[might] have missed
(3) can't have forgotten[forgot]
(4) must have caught

解説

- (1) 「～しておくべきだった」という過去のことに対する後悔や非難の意味は、〈should have + 過去分詞〉で表す。
- (2) 「～したかもしれない」という過去のことに対する推量の意味は、〈may[might] have + 過去分詞〉で表す。
- (3) 「～したはずがない」という過去のことに対する否定の確信の意味は、〈can't have + 過去分詞〉で表す。
- (4) 「～したに違いない」という過去のことに対する確信の意味は、〈must have + 過去分詞〉で表す。

[5] (1) I think Sarah would be perfect for that job.
(2) We'd better not go out for a while.
(3) John won't go to the dentist because he's afraid of the pain.

解説

- (1) 「サラはたぶんその仕事にぴったりでしょう」「たぶんさうだろう」という意味は、助動詞 would で表すことができる。
- (2) 「しばらく外出してはだめだ」「～してはだめだ」という意味は had better not で表すことができる。

- (3) 「ジョンは痛みが怖いので、どうしても歯医者に行こうとしません」
「どうしても～しない」という拒絶の意味は、助動詞willの否定形won'tで表す。be afraid of ~で「～を怖がる」という意味。

- [6] (1) That boy must be the smartest boy in his class.
(2) This baby cat can't have broken that big vase.
(3) You should turn off the light [turn the light off] when you leave the room.
(4) When I was a child, I would often go swimming in the river with my brother in summer. [When I was a child, in summer I would often go swimming in the river with my brother. / In summer, when I was a child, I would often go swimming in the river with my brother. / I would often go swimming in the river with my brother in summer when I was a child.]

解説

- (1) 「～に違いない」という確信の意味は助動詞mustで表す。「最も賢い」は最上級の表現なので、与えられているsmartという語は、the smartestにする。
(2) 「～したはずがない」という過去のことに對する否定の確信の意味は、〈cannot[can't] have + 過去分詞〉で表す。「壊す」はbreakで、過去分詞形はbrokenである。
(3) 「～すべきだ」という当然の意味は、助動詞shouldで表す。「(明かりなど)を消す」はturn off ~で表す。
(4) 「よく～したものだ」という過去の習慣は、助動詞wouldで表す。「泳ぎに行く」はgo swimmingである。

- [11] (1) ① (2) ③ (3) ③ (4) ④ (5) ②
 (6) ④ (7) ② (8) ① (9) ② (10) ④
 (11) ④ (12) ② (13) ② (14) ②

解説

- (1) 「彼女は昨年、オーストラリアを2回訪れました」 last year「昨年」という過去を表す語句に注目。過去形で「過去にしたこと」を表す。
- (2) 「電話が鳴ったとき、私はテレビを見ていました」 when the telephone rang「電話が鳴ったとき」という過去のある時点を表す表現に注目。過去進行形で「過去のある時点で進行中だった動作」を表す。
- (3) 「私の姉は学生だったとき、京都に住んでいました」 when she was a student「(彼女が)学生だったとき」という過去のある時点を表す表現に注目。used toで「(今とは違う)昔のこと」を表す。
- (4) 「(ジョー)明日は何をする予定?」「(ブライアン)予定は何もないんだ。本でも読もうかな」 未来のことを表すときはwillやbe going toを使うが、willは「その場で決めたこと」、be going toは「前から決めていること」について言うときに使う。I have no plans.「予定は何もない」と言っているので、willを使う。
- (5) 「明日、ジョンは東京で開かれるあるコンサートを見に行くつもりです」 Tomorrow「明日」という未来を表す語に注目。be going toで「そうすると決めていること」を表す。
- (6) 「残念ながら、飛行機はすでに出てしまいました」 already「すでに」という完了したことを表す語に注目。現在完了形で「完了していること」を表す。主語が三人称単数のthe planeなので、現在完了形(have + 過去分詞)のhaveをhasにする。
- (7) 「水道管はこの2週間ずっと壊れたままです」 for the last two weeks「この2週間ずっと」という継続している期間を表

す表現に注目。現在完了形で「現在まで継続している状態」を表す。

- (8) 「あなたは自分の失礼な行いについて彼女に謝るべきです」 apologizeは自動詞なので、名詞を続けるには前置詞が必要。<apologize to + 人 + for ~>で「~のことで人に謝る」という意味を表す。
- (9) 「干しブドウは、アメリカ合衆国、オーストラリア、チリ、メキシコ、ギリシャ、トルコといった世界の多くの地域で生産されています」 raisins「干しブドウ」が主語なので、受動態を使ってare producedとする。
- (10) 「残念ながら、博物館はちょうど今修理中なので、訪れることはできません」 the museum「博物館」が主語なので、進行形の受動態を使って「修理されている最中だ」とする。
- (11) 「より新しい車種は来春、展示されます」 next spring「来春」という未来を表す表現に注目。<will + 受動態>で「これからされること」を表す。
- (12) 「この小学校では、1904年からずっと英語が教えられています」 since 1904「1904年からずっと」という<継続>を表す表現に注目。完了形の受動態を使って「ずっと教えられている」とする。
- (13) 「パーベキューをしたあとは、火を消す必要があります」 文意に合うのは、② put out「(火・照明などを)消す」。他の選択肢は、① put off「~を延期する」、③ turn away「~から顔をそむける」、④ turn out「~であるとわかる」という意味。
- (14) 「大阪行きの列車は2分後に出発します。あなたは今すぐ急ぐべきです」 助動詞shouldを使って「そうすべきだ」と思っていることを表す。助動詞は<助動詞 + 動詞の原形>という形で使う。

[2] (1) ① (2) ③ (3) ②

解説

- (1) 「幼い子どもだったとき、私はアメリカ合衆国に行きましたが、他のどの外国にも一度も行ったことがありません」 when I was a small child「幼い子どもだったとき」という過去を表す表現があるので、完了形を使うことはできない。①をI wentとして過去形を使うのが正しい表現。
- (2) 「私たちがホールに到着したときまでに、コンサートはすでに始まっていたので、扉が開くのを待たなければなりませんでした」 so we had to「…ので、私たちは～しなければなりませんでした」とあるので、全体として過去のことを述べた文であることがわかる。「コンサートが始まった」のは「私たちがホールに到着した」ときよりも前のことと考えて、③をhadとして過去完了形で表すのが正しい表現。
- (3) 「私たちはこの問題を6時間ずっと話し合っていますが、まだ解決策が見つかりません」 discussは他動詞なので、目的語となる名詞はあとに直接続ける。②のaboutが不要。

[3] (1) Oh, I'm sorry, **but I have lost my way**, too.

- (2) For many years **she has been working hard at** improving her English language speaking and listening skills.
- (3) Unfortunately, I **won't be able to** attend the next meeting.

解説

- (1) 「(旅行者)すみません、私が今、どこにいるか教えていただけませんか」「(通行人の女性)あら、ごめんなさい、私も道に迷ってしまったんです」 現在完了形have lostで〈完了・結果〉を表す。「道に迷ってしまっ

たので、教えてあげることはできません」ということ。lose one's wayで「道に迷う」という意味。

- (2) 「何年もの間ずっと、彼女は自分の英語のスピーキングとリスニングの技能を向上させようと懸命に努力してきました」 For many years「何年もの間ずっと」に注目。現在完了進行形has been workingで「継続している動作」を表す。
- (3) 「残念ながら、私は次の会議に出席することはできないでしょう」 be able to「することができる」の前にwon't[will not]をつけて、「することはできないだろう」という意味を表す。

[4] (1) When their coach arrived at the field, **the team had been practicing for two hours.**

- (2) You can borrow my car, but you **must bring it back before ten.**
- (3) When I was a child, my grandfather **would often read me an interesting story at night before bed.**
- (4) You **should have knocked before you came in.**

解説

- (1) 過去完了進行形had been practicingで「過去のある時点まで継続していた動作」を表す。
- (2) 「返しなさい」→「あなたは返さなければなりません」と考えて、you must bring it backとする。bring backで「～を返す」という意味。目的語が代名詞の場合は、bring it backといった語順になる。
- (3) would oftenで「過去によくしたこと」を表す。readのあとに目的語を2つ続ける場合、「だれに」「何を」の順に続ける。
- (4) 〈should have + 過去分詞〉で「そうすべきだった」と思っていることを表す。

- [1]** (1) information
 (2) Honesty
 (3) rice
 (4) scissors

解説

- (1) information「情報」は数えられない名詞。further informationで「より詳細な情報」という意味。via ...で「…によって、…で」と表す。
- (2) honesty「正直」は数えられない名詞で、単数扱い。anはつかない。
- (3) rice「米」は数えられない名詞で、単数扱い。そのままでは数えることができないが、「単位」を用いて数えることができる。a bowl of rice「ごはん1杯」など。
- (4) scissors「はさみ」のように、1対になって1つの物を構成しているものは複数形で用いる。数え方は、a pair of / two pairs of scissorsとなる。

- [2]** (1) a, a, The
 (2) a
 (3) the
 (4) ×, ×

解説

- (1) car「車」もmotorbike「バイク」も数えられる名詞。1文目のcarとmotorbikeはどれのことか聞き手にはわからないものなので、「特定できない1つ」を表すaをつける。2文目のcarはすでに話に出てきたものなので、「特定できるもの」を表すtheをつける。
- (2) headacheは数えられる名詞。have a headacheで「頭痛がする」という意味になる。
- (3) news「知らせ」がof her resignation「彼女の辞任の」という修飾語句に限定されて特定できる知らせになっているので、theをつける。
- (4) go to school「学校に行く」は「通学する」

という意味で、具体的な「学校」を意識してはいないので無冠詞で使う。by bus「バスで」のように〈by ...〉で交通手段を表す場合は無冠詞。

- [3]** (1) some money
 (2) Many, much
 (3) a lot of baggage
 (4) three pieces of paper

解説

- (1) money「お金」は数えられない名詞なので、some moneyが適切。
- (2) things「こと」は数えられる名詞の複数形なのでManyが、sleep「睡眠」は数えられない名詞なのでmuchが適切。
- (3) baggage「手荷物」は数えられない名詞なので、a lot of baggageが適切。
- (4) paper「紙」は数えられない名詞なので、数える場合は、a piece[sheet] of ~を用いる。複数形にしたい場合は、a pieceを複数形にするので、three pieces of paperが適切。

- [4]** (1) these books
 (2) Each country, its[their]
 (3) every[each] member
 (4) your, my

解説

- (1) 「これらの本」はthese books。thisは距離的・心理的に近いと感じるものを指すときに使う。近くにある複数ものを指すときは複数形のtheseを使う。
- (2) 「それぞれの国」はeach country。eachは〈each + 名詞(単数形)〉で「それぞれの、どの~も」の意味を表す。〈one's own〉で「~自身の、~特有の」の意味を表す。Each countryを受けているので、its [their] own flagとなる。
- (3) 「どのメンバーも」はevery[each] member。every[each]は〈every[each]

+名詞(単数形)>で「あらゆる, どの～も」という意味を表す。

- (4) 「あなたの親切」はyour kindnessで表す。「私の生徒たち」はmy students.

- [5] (1) **Would you like another cup of coffee?**
(2) **I heard that a student from your school had won the national swimming championship.**
(3) **Each citizen is encouraged to vote** in the election.

解説

- (1) 「コーヒーをもう一杯いかがですか」
anotherは不特定のもう1つ[1人]を指す。another cup of coffeeで「コーヒーをもう一杯」という意味を表す。
- (2) 「あなたの学校の生徒が水泳の全国大会で優勝したと聞きました」
「あなたの学校の生徒」はa student from your schoolで表す。student「生徒」は数えられる名詞なので、無冠詞単数形で用いることはできない。「優勝した」のは「聞いた」時点より前のことなので、had wonと過去完了形にする。
- (3) 「どの市民も選挙で投票するよう奨励されています」
「どの市民も」はEach citizenとする。<each + 名詞(単数形)>で「どの～も」という意味を表す。

- [6] (1) **I bought a ring at an online auction.**
(2) **My brother usually has two slices of bread and a glass of milk for breakfast.**
(3) **Do you have any pets?**
(4) **The Internet is very useful for knowing the circumstances of every part of the world.**

解説

- (1) ring「指輪」は数えられる名詞。「1つ」なので不定冠詞をつけて、a ringとする。「ネットオークションで」はat an online auctionで表す。
- (2) bread「パン」とmilk「牛乳」はどちらも数えられない名詞。数える場合はそれぞれtwo slices of bread「パン2枚」、a glass of milk「牛乳1杯」のように単位を使って表す。breakfast, lunch, dinnerなどの食事名は通例、冠詞なしで使う。
- (3) anyは数や量があるかどうかを問題にするときに使う。anyのあとに数えられる名詞がくる場合は、複数形にする。anyはI don't have any pets.「ペットは飼っていません」のように、数や量がないことを表すときにも使うことができる。
- (4) 「世界各地」は「世界のそれぞれの場所」と考えて、each part of the worldとする。<each + 名詞(単数形)>で「それぞれの～」という意味を表す。circumstanceを「状況」の意味で使う場合は、通例複数形でcircumstancesとなる。